

小柳よしふみの地域活動

2017年も「トリ」のように羽ばたき、華麗に舞うさいたま市をめざしてがんばります!!



2016ツール・ド・フランス
さいたまクリテリウム



堺タカシマヤ9階を使った子育て支援施設
キッズサポートセンターさかい



地域の餅つき大会



瀬戸内国際芸術祭2016の視察



精神障がい者支援事業
アウトリーチ事業者視察



郵便ポストの設置



防災倉庫の設置



未来のなでしこジャパン
少年女子サッカー大会視察



第2回さいたま国際マラソン
駒場ファンラン・リレーマラソンの部

みなさんのご意見・ご要望をお待ちしています

お名前

TEL

ご住所

このままFAXでご送信下さい。FAX **048-799-3233**



「後援会イベントでハイ、チーズ!」

市政へのご要望・ご質問は

小柳よしふみ 事務所

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F

TEL: 048-799-3232 FAX: 048-799-3233

E-mail info@koyanagi.jp

ホームページ http://koyanagi.jp/

ブログ http://ameblo.jp/y-koyanagi/



ご来場をお待ちしております!

第23回市政報告会

北浦和クイーンズ伊勢丹 3F

日時: 平成29年1月22日(日)

18:30~19:45

会場: 北浦和カルタスホール
第1会議室

入場無料



こやなぎ

小柳よしふみ

小柳よしふみ

検索

市政レポート
2017.1 vol.24

小柳よしふみ 事務所 〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F TEL: 048-799-3232 FAX: 048-799-3233
E-mail info@koyanagi.jp ホームページ <http://koyanagi.jp/> ブログ <http://ameblo.jp/y-koyanagi/>

新たな歴史の幕開けとなる2017年

～最高の日常を楽しめる都市であるために～

新たな夢や希望とともに、新年の幕開けをお迎えのことと思います。皆さま一人ひとりの想いが成就する2017年になることをお祈りいたします。

昨年は、オリンピックイヤーとして盛り上がり、年末に清水寺で発表された今年の漢字は、金メダルラッシュにあやかって「金」でした。

しかしながら、輝かしい出来事ばかりか、むしろ波乱の一年であったように思います。4月には観測史上初めて震度7が二度続いた熊本地震があり、私も直後にボランティアとして現地に入りました。その後も、離脱支持が過半数を超えたイギリスの欧州連合(EU)離脱の是非を問う国民投票、突然の都知事選挙による小池知事の誕生や、アメリカ大統領選挙でのトランプ氏の勝利、韓国大統領の辞任問題と、世界各地で波紋を呼んだ年でした。

さて、さいたま市議会では、12月22日に12月定例会が終了しました。小柳よしふみは、本会議で一般質問に立ち、保健福祉委員長として委員会運営に務めるなど、変わらず活発に活動させていただいております(中面参照)。

一方さいたま市は、この5月に市長選挙が予定され、清水市政2期目も最終コーナーを迎えており、活発な議論の場にすべきと考えます。多くの市民に、市政へと目を向けていただく機会です。さいたま市政も新たな歴史の幕開けの年となります。

私も、生活都市であるさいたま市が、最高の日常を楽しめる都市(まち)であるために、しっかりと地に足の着いた市政推進に取り組んでまいります。2017年も小柳よしふみの活動に、どうぞご期待いただきますようお願い申し上げます。



浦和っ子

- 昭和40年(1965年)8月27日生まれ A型
- 浦和市立高砂小、岸中、県立浦和高、慶應義塾大学商学部卒業。
- 埼玉銀行を経て、警備会社を経営。平成23年よりさいたま市議会議員(浦和区)。
- 平成27年 浦和区にて第1位当選(2期目)。
- 保健福祉委員会 委員長
決算特別委員会
オリンピック・パラリンピック競技大会支援特別委員会



毎月第3日曜16時から浦和駅西口駅頭でお伝えしています。

TOPICS

さいたま市の人口128万人超え

本市の人口は、128万1,171人(平成28年12月1日現在)となる。20政令市中で9番目。平均年齢は、43.61歳。



さいたまトリエンナーレ2016 閉幕

市政15周年記念事業としても行われ、12月11日、無事に79日間の幕を閉じた。主要6会場やイベント参加者は、目標であった10万人を超えたが、周知不足や担当職員の残業代の問題など、課題も指摘された。

「ふるさと応援」寄附の返礼品がリニューアル

寄附金額のカテゴリーを1~3万円未満、5万円未満、10万円未満、20万円未満、20万円以上の5カテゴリーへ。それに伴いお礼の品も拡充され、レッズ選手のサイン入りユニフォーム等の応援グッズや、盆栽なども予定。

オリンピック・パラリンピック 強化選手への支援

スポーツ振興基金を使い、強化指定選手に10万円の奨励金を交付。また、小中学生全国大会等出場への奨励金も拡充する。



小柳よしふみ から

今後の施策に関する質疑や提言

問題意識

さいたま市外へ通勤・通学している市民の割合は、**全市民の24.9%**です。つまり、約3/4の市民は本市でほとんどの時間を過ごしていることになります。したがって、**本市が最高の日常を過ごせる都市(まち)**であることが、多くの市民の幸せにつながるようになります。そういった視点から質問を行いました。

1 さいたま市の将来ビジョンについて

Q 本市の将来的な施策展開を考える上で、東京との関係をどのように考えて本市の将来像を描いているのか？

A 東京都は2人以上の世帯についての転入傾向が強く、全体として転入超過の傾向にある。近接都市として、福祉・教育など生活基盤の充実を図り、質の高い心豊かな生活ができる都市づくりが必要。国から位置づけられた東日本の滞留拠点、防災拠点としての特徴も生かしてゆく。



本市の最大の特徴は、世界有数の大都市東京の近接都市であるということ。東京の存在を上手く利用するという視点が、差別化や効果的な施策展開につながる。

2 国際スポーツイベントにおけるレガシー(よい遺産)による最高の日常の実現について

オリンピック聖火リレー、ラグビーW杯キャンプの誘致を求める！

Q 市民の心に残り、街への素晴らしいレガシー(よい遺産)を期待できるオリンピック聖火リレーや、ラグビーW杯2019のキャンプ地誘致を積極的に行うべき。

A 大会を一過性のものとせず、市民の記憶に残るものとするため、埼玉県とも連携・協力を図りながら、聖火リレーの誘致に努めていく。また、世界のトップ選手と触れ合う機会は貴重であり、ラグビーW杯のキャンプ地誘致もエントリーを目指す。



スポーツ好きかどうかや老若男女を問わず、多くの市民や街に足跡を残すオリンピックの華である聖火リレーの誘致は、積極的に取り組むべき。

3 魅力的な学校運営による最高の日常の実現について

(1) 学校施設運営への民間力の活用について

Q 学校プールなど短期間しか活用されていない。施設の有効活用のための複合化や民間の活用など、魅力的な学校施設の将来像をどう描いているのか？

A 文部科学省からも「学校施設の有効利用、管理の工夫による地域への学校開放の促進」が示されている。コミュニティの核となるよう、公民館や福祉施設等との複合化の研究を始めている。



施設の地域開放が進んでいる調布市立調和小学校



学校施設は、教育の場であることは大前提。しかし、その役割が変わってきている。防災拠点、コミュニティ拠点、スポーツ施設等。公共施設として有効活用する将来ビジョンが必要。

(2) 私会計に関する市としてのコンプライアンスという観点からの見解について

Q 私会計に関しては本市でも事故事例が発生している。学校給食の公会計化についての見解と、今後の取り組みについて問う。

A 全小中学校が自校式給食で、独自の献立と地場産物の活用という特色を損なわないことが大原則。船橋市が自校方式での公会計化に踏み切っており、研究をしてゆく。

4 戦略的な施策推進による最高の日常について

(1) 地震火災対策推進のための感震ブレーカーの普及について

Q 地震火災の主要な要因である電気火災防止のための感震ブレーカーの普及促進を求める。

A 感震ブレーカーの有効性については、市では「防災ガイドブック」において周知をしている。防火対策については、地域全体で取り組む必要があり、浦和区自治会連合会からのご要望もあり、感震ブレーカー普及に関する補助についても前向きに取り組んでゆく。

(2) 公園整備促進のための支援メニューの拡充について

Q 市街地における公園整備が進んでいない。抜本的な公園拡充策の見直しを求める。

A 一人当たりの公園面積も目標に届かず、公園不足の現状がある。現在は、借地公園という手法が有効と考え、まずはその制度の周知を図る。

(3) 最高の日常を楽しめる街にするために行政が担うべき役割について

Q 市民の幸せを実現するために、施策の充実とともに各局等が担う施策の効果を総合的に調整する機能強化が必要ではないか？

A 関連する事業間において、全体を見据えた調整が必要な場面が出てくることは認識している。施策を総合的かつ効果的に展開できる体制づくりに努めていく。



前向きな答弁を評価する。今後は、他市の例にあるように、民間事業者との協力による普及の検討も進めるべき。



借地公園は、固定資産税や相続税の一部減免ということで地主にとってのメリットにまだ乏しい。国も補助制度を開始する。上乘せした施策をするべき。



市民の生活実感という面からの街の将来ビジョンの検証が重要と考える。この点、ハード整備が先行しがちな街づくりを打破するために、施策を総合的に判断できる機能が必要。



12月 定例会 補正予算の特徴

(1) 国の補正予算を活用した施策

①「被災者生活再建支援システム」など防災対策	55,660千円
②低所得者対策のための臨時福祉給付金事業	3,220,680千円
③障がい者施設の施設整備・防犯対策	656,860千円
④保育士就職準備金貸付金事業	30,000千円
⑤小・中学校のトイレ改修など	1,245,858千円
⑥道路・下水道等の整備	643,697千円

(2) 美園地区新設小学校用地取得 3,760,634千円

(3) (仮) 東日本連携支援センター設置関連 20,661千円

保健福祉委員会より

1 精神障がい者へのアウトリーチ事業の推進について

Q 厚生労働省は、数年前からアウトリーチ事業を行い、所沢市でも単独事業として始まっている。現状、ご家族の要望も強いこの事業への取り組みについての見解を求める。

A 在宅の方への訪問事業は行っているが、医療の専門家の協力等の関係で、思うように実施できていない。早期発見、早期治療が重要で、未受診の方へのアプローチの仕方について、検討していく。



小・中学校のトイレ洋式化が一步前進

12億4,500万円規模の補正予算が成立し、小学校6校、中学校5校のトイレの洋式化工事が始まる。これにより、工事終了予定の2017年夏時点で、小学校53%、中学校57%の洋式化が図られる見込みとなる。

障がい者施設の施設整備・防犯対策

相模原市で発生した障がい者福祉施設における殺人事件を受けて、市内の障がい者施設の防犯対策を進める。

- ①門、フェンスの設置、修繕
- ②防犯カメラ、非常通報装置の設置など



精神障がい者やそのご家族は、医療機関や専門家からの診療、診察を受けるまでの苦労がある。この点、アウトリーチ事業(出向いて行く)の重要性は大きい。実態把握もまず必要である。